

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月5日
函館市立弥生小学校

1 本年度の重点教育目標

『“心のつながり”を広げ、生き生きと活動する子』
キャッチフレーズ「やりとげた よろこび いっぱい 弥生小」

2 本年度の取組の重点

- 子供を大切に、主語にする学校づくり（子供の育ちを視点に評価・改善）
- 安心して、主体的に学べる学校づくり（子供のウェルビーイング）
- 働きがいがあり、幸せを感じる学校づくり（教職員のウェルビーイング）
- 学校・保護者・地域とつながり子供と向き合う学校づくり（信頼・協働）

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		概況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①確かな学力を育む教育の推進	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、創意ある教育課程を編成、実施することができたか。	a	教育課程「弥生カリキュラム」に基づいた一丸となった指導を行うと共に、子供の育ちを視点とした授業改善に努める。	A	A	・弥生カリキュラムが定着してきている。 ・どの学年も主体的に授業に取り組んでいると感じた。
	基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫改善を推進することができたか。	a	「弥生スタンダード」に基づき、共通性のある指導を徹底すると共に、子供が自身の学びを調整できる資質を育て、学力の定着に努める。	A	A	・「学びを調整できる子どもの資質とは」？ ・先生達がカリキュラムを意識し、学年の特色を生かしながら指導している。
②豊かな心を育む教育の推進	・学校の教育活動全般を通して、道徳的な判断力や実践力の向上が図られているか。	b	・日常的な児童・生徒とのふれあい活動とともに定期的な調査により積極的にいじめを認知しよりよく人と関わる力の育成を図る。 ・道徳科を中心とした全教育活動を通じて道徳的な実践的判断力の育成を図る。	A	A	・思いやりのある子どもたちの育ちを感じる。 ・スマホ等の利用が増え、ネットのいじめや個人情報の拡散がニュースでとりあげられている。各小中学校のスマホの利用状況、フィルタリングの実態、正しい利用方法の啓発等はどうになっているのだろう。 ・総合的な学習（福祉学習）を通じて、その人の立場になって考える事を学び、相手を思いやる。困っている人を見たら助ける心を育てる事ができている。 ・校長先生はじめ先生達が登校してくる児童とあいさつを交わり、その日の様子の把握に努めている先生方のチームワークも良く、安心して通うことができると思う。
	・コミュニケーションの基本としての挨拶や返事などを通し、公共性、社会性を育むことができたか。	b	・学校や地域で関わる人とのあいさつを大切にする風土を醸成する。 ・協働的な学習など、人との関わりを通して、よりよい人間関係を築こうとする意識を向上させる。	A	A	・これまでの成果を整理し、よりよい地域作りを ・校外外にかかわらず気持ちの良いあいさつや態度をしている児童 ・生徒ばかり！青柳ネット全体があいさつはとても良くできていると判断して良いと思う。 ・児童館に来館する児童・生徒はきちんとあいさつや返事ができる。中学生ボランティアは地域の方ともすぐ打ち解け、行事を盛り上げてくれた ・さりげなく、爽やかにあいさつしてくれるお子さんが多い。 ・学校を訪問した際やボランティア活動で児童・生徒にあうと必ずあいさつをしてくれる。また、ポ

						ランティア活動を通じて自分たちの住む地域に目を向け、幅広い世代と交流を図ることで公共心・社会性をはぐくむことができていると思う。
③健やかな体を育む教育の推進	望ましい生活習慣の定着や健康や体力向上を図る活動を推進することができたか。	b	「体力向上プラン」をもとにした指導の充実を図るとともに、家庭、地域とも連携し、生活習慣の維持・向上に努める。	A	A	・体力向上の年次目標が必要
	自らの命を守り、健康な生活を送る力を身に付けさせることができたか。	a	安全教育に「自助」「共助」の視点を盛り込み、子供たちの安全や生命尊重の意識を更に高める。	A	A	・防災意識の高まりを感じる。
④学校における指導体制等の充実	学校教育目標の実現に向け、教職員が一丸となって子供たちの教育に携わっていたか。	a	学校経営ビジョンの共通理解に基づいた全教職員による学校経営参画意識を基盤に教育活動の更なる充実を図る。	A	A	
	教職員は心身ともに健康で意欲的に子供たちの指導にあたっているか。	b	学校における働き方改革の家庭等への理解促進を更に図り、業務改善の推進を基盤とした、子供と向き合う時間の確保に努める。	A	A	・家庭への理解を図る手立てが必要。
⑤家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	コミュニティ・スクールと連携した取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	b	青柳ネットを中心に、地域の人材等を効果的・積極的に活用した学校運営が推進できるよう努める。	A	A	
	育てたい子供像を、学校・家庭・地域が共有し、共に子供たちの教育に携わっていたか。	a	学校便りや連絡アプリ等を活用して保護者や地域への情報を発信し、家庭や地域とともに、学校教育を推進することに努める。	A	A	・おたより等で学校の取組が伝わってくる。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。